

令和4年度 第3回 長野市林業振興審議会 議事録(概要)

日 時：令和4年8月19日(金) 午後1時30分～3時30分

場 所：第二庁舎 8階 282会議室

出席者：長野市林業振興審議会委員 14名

事務局 5名

次 第：1 開会

2 挨拶

3 議事 (1)長野市森林経営管理計画(案)について

(2)長野市森林経営管理計画策定までのスケジュールについて

4 その他

5 閉会

議事(概要)

議題(1)森林経営管理計画(案)について

資料1に基づき事務局から説明

事務局

事前に委員より、19ページ表9の「林産」を「林産」と「林業機械」に分けたらどうかという意見があった。

委員

林業機械→林産の流れの方が良いのではないかと。林業機械は現場の話。

事務局

林産の中に、ICTを活用したサプライチェーンの構築という項目が入っている。その下にあるような、機械の自動化や高性能化等も含めて、同じカテゴリに入ってくるんじゃないかということで、林産のままでいかがか。

委員

林産は林業でできた木材、林産物ということなので、機械などサプライチェーンにも関係して含むという形になるのは無理がある。これが本当に林産でいいかどうかというところはあるが、林業機械に分けて林産を一番最後にするっていうのが普通。

委員

ICTを活用するということであれば、最初の調査・情報管理の方に入ると思う。
或いは情報活用。ICTでいろいろ行うとするならば、情報収集と活用になる。

委員

サプライチェーンの構築は色々な角度から見ることができると思うが、「販売」になるのでは。

委員

次のページの20ページに木材検収システムっていうのが出ているが、これは19ページのどこにあたるのか。

委員

検知になるのでICTの部分。

委員

20ページに書いてるのは、ドローンを使用した森林の解析や衛星を利用した測量という調査の内容で、木材検収もその一部にあるように見える。そうすると調査計画の一番上の方の一連の流れに入れておかないと、次のページとの整合をつかないのかなっていう感じがする。

ただ、木材需要に即応できる体制を作るということを言いたいのであれば、そこを強調して、20ページとはまた別の話です、と分ける必要があるかなと思う。

委員

調査・情報は、川上がどうなってるか情報を効率的に集めて、それを解析してまた、森林管理させるという考え方で、今回のサプライチェーンの構築はどちらかっていうと軸足は川下になるのかなと思っている。

需要に即応できるサービスを作るためには、どういう木材がどのぐらい今必要されてきているのかという川下側のデータをしっかり把握して、川中川上の方にもっていきこうということがここでは本来示したいことなのではないかなと。

ICTの活用は、技術を全部うまく複合して使いながら効率化しましょうということなので、流れの中に入れるとおかしくなる。むしろICT技術の活用による効率化が一番上の分野のところに入ってもいいかなと思う。

委員

③のタイトルを、「ICTを活用したサプライチェーンの構築」にすれば、流通まで入ってくるのかなと。

委員

対象が市民の皆さんなので、専門的な話にこだわって整合性があるかどうかよりも、流れとして大まかに、今までより先端技術を使っているんなことができるようになりますよということを理解してもら方がいい。例えばドローンだったらこういうふうを使うというのが次のページの写真に載っていたり、という方がわかりやすい。

委員

先端技術を活用して、合理的・効率化的な体制作っていく、さらにそれが、皆さんもいろんな需要に応じていくベースになるんだというぐらいの簡単な文章にしたほうがいい。

ICT はかなり大きな話でここに個別に並べる話ではないので、ここに羅列されてる個別技術をうまく使いながら、サプライチェーンを構築していきましょうということでは。

委員

19 ページの表9のコンテナ苗について、時期を選ばずというよりは、裸苗よりは活着がいいですくらいの方が、当たり障りない表現かなと思う。

下刈りの省力化についても、最近、大苗を植えることによって下刈りの回数を減らしているというスマート林業のことを言われているが、導入についてはまだ研究段階かもう少し先かなとは思っていて、展望で書いてもいいのか、っていうのは、もうちょっと考えていただきたいところかなというがもう一つ。

あと早生樹の植林について、外来種なので、林業としてはいいことだが、環境の方面で見るとその外来種をどんどん入れていくかというのはもう少し慎重に考えていかなきゃいけないので、ここに書いてしまったことによってあたりが強くなってもいけないと思うので、そういったところも少し検討した方がいいかなと思う。

委員

その辺はで読み手側が勘違いしないようにしたほうがいい。長野市としても、十分に検討検証を行って、導入を進めていきますのほうの方がわかりやすい。

そういうのもあるというという一般的な話として書いてるんだということを、明記した方がいい。

委員

そうすると、表9のタイトルも先端技術・管理手法の一覧と書かずに、1例、事例とした方がいい。

委員

コンテナ苗も裸苗と比べて、特段活着がいいってところはない。国有林で使ってるっていうのはやっぱり、今まで春に植えていたのが秋でも植えることができるということがメリットになってる。

委員

時期を選ばずって言うてしまうと、注文が真夏に来たりとか真冬に来たりとかしてしまうことがあって、出す方としては、時期を選ばずというのは過大評価になってしまう。

委員

植栽時期の自由度がより高い、成長がよいぐらいがいいかもしれない。また、裸苗だと、熟練の人が、丁寧でしっかり植えるのと、そうじゃない場合はかなりばらつきが出てくる。それと比べると、コンテナ苗の方は、そういう特殊な技術が必要としないので、そういうばつからないっていう、そういったいろんないいところ悪いところが出てくるので、そういった話から選んで、生産効率が高いっていうと、植栽時期の自由度が高い。

伐採と機械地拵え、造林を同時に行い、地拵えのコストをカットするというのは残していいと思うが、コストカットっていうと、ゼロになるようなイメージなので、コストを下げるとか、低減するとか、そういう表現かなと。

委員

コンテナ苗の使用とあるが、他と統一して、活用という言葉の方がよいのでは。

委員

下刈りの省略についても、5年ほど毎年行う下刈りの回数を減らすことで、下刈りコストを下げるという書き方のほうがいい。

委員

導入にあたっては、地域性を考慮し十分な検討が必要ですというのも、これも表の下によらずに、上の文章でしっかり書き込んだ方がいいかもしれない。

議題(2) 森林経営管理計画策定までのスケジュールについて

資料2に基づき事務局から説明

意見 特になし